



無限の力がある

石川 現在のアニメ業界の礎を築いたアニメーターが、当社に所属してくれていたというのはありがたいことです。そのような方々がこの多摩の現場でこだわってこだわって、いいアニメを作ろうと頑張ってくれたことは感謝しかありません。

阿部 本年1月にアニメ化35周年を迎える「ちびまる子ちゃん」との出会いについても教えてください。

石川 「ちびまる子ちゃん」は私の娘の提案で企画がスタートした作品なのです。父の本橋が私の娘に「学校で何が流行っているの？」と聞いたのですが、その時に出てきたのが「ちびまる子ちゃん」。当社では作ったことのない作風だったこともあり、その場で友達に電話をかけてもらって、人気を確認していたことを今も覚えています。翌日には「これをアニメ化するぞ」と。現場としてはそれまでの「世界名作劇場」と全く作風が異なるものだったので当惑したスタッフもいたそうですが、本橋の「アニメ化する」という強い想いで実現させることができましたそうです。

阿部 実行力のあるお父さんなんですね。

石川 何事にも積極的に挑戦する人でしたね。

阿部 その「ちびまる子ちゃん」の時代設定は1970年代。約50年前が時代背景ですが、今見ても古さを全く感じない、どこか近所に「ちびまる子ちゃん」がいるような、そんな気がするアニメです。

石川 原作があるので時代設定は変えることができないのですが、私は昭和のあの時代を描くことがとても大事だと思っています。「昭和にはこんなことがあったんだよ」ということを伝えることもできますから。

「お友達を大事にしよう」「家族を大事にしよう」というようなメッセージが「ちびまる子ちゃん」には含まれています。

阿部 今の子どもたちが悩んだりつまずいたりすることと同じことを、昭和の世界で生活しているま

るちゃんも悩んだりつまずいたりしています。

石川 「世界名作劇場」もそうなのですが、子どもの心の根本的な部分は今も昔も変わらないと思っています。まるちゃんが悩むようなことは今の子どもの悩みでもあります。アニメを通して「同じ悩みを抱えている人がいる」と安心することができたり、解決のきっかけとなったりするようなことができたらいいな、と思っています。

あとは「家族のだんらん」ですね。3世代で暮らしている「ちびまる子ちゃん」から、家族の大切さを学んでくれたら嬉しいな、と。

阿部 日本アニメーションの最寄り駅でもある聖蹟桜ヶ丘駅ですが、今年の3月で開業100周年を迎えます。その聖蹟桜ヶ丘で開催している「ラスカル子ども映画祭」も日本アニメーションの数々の名作上映の他、海外アニメの上映なども定着してきましたね。今年も2月に開催されます。毎回、多くの子どもが来ています。

石川 多摩市と連携している取り組みとして、「ラスカル子ども映画祭」「聖蹟桜ヶ丘まち歩き」「ラスカルデザインマンホール」などがあります。多くのことに取り組むことができているのは、当社としても喜ばしいことだと思っています。地域と連携してアニメを皆さんにお伝えすることはとても大切な機会です。子どもたちにどのようにアニメを鑑賞して欲しいか、どのように子どもの心をアニメを通して育んでいくか、ということを皆さんに伝えていきたいです。そのために、地域に根付いた取り組みに協力できることは、私たちにとっても嬉しい事です。今後も、多摩市と一緒に取り組みたいと思っています。

阿部 日本アニメーション所属のイラストレーターである永見夏子さんに私の名刺のイラストも描いていただいているのですが、「ラスカル子ども映画祭」「聖蹟桜ヶ丘まち歩き」にも

永見さんのイラストを使わせていただいています。「ラスカルデザインマンホール」もそうですが、いろいろな場面に日本アニメーションのイラストが使われていて、多摩のまちに根付いている、なくてはならない存在です。ところで、アニメと言えばクールジャパンの象徴として世界で高い評価を得ています。平和や自然、ファミリーなどストーリー展開、動物や子どもなどのキャラクターによる独特な世界観など私も好きなアニメ作品は数多くあります。日本アニメーションの「青のオーケストラ」(2023.4TV公開)はオーケストラ部のある高校に進学した元天才バイオリニストと音楽初心者の保健室登校している生徒との青春アンサンブル。バトミントンでインターハイを目指す生徒を描く「ラブオールプレー」(2022.4TV公開)もありました。今後どのようなテーマに挑戦されていきますか。

石川 「世界名作劇場」はこれからも見ていただきたいと思っておりますが、今おっしゃっていただいたような作品のような、子どもたちや若者たちが何かに挑戦し、苦労しながらも成長していく、そんなストーリーのアニメを制作していきたいと考えています。「青のオーケストラ」は第2期の放送も決まっており、現在制作を進めておりますのでどうぞお楽しみに。

阿部 近年、世界はウクライナ、ガザ、レバノンなどで戦火が拡大し、未来を担う若者や子どもの命が奪われています。本年はアジア太平洋での戦争が終わり戦後80年の年です。昨年、被爆者の方々が核廃絶を訴えてきた「日本被団協」がノーベル平和賞を受賞しました。平和で戦争がなく、格差と分断のない世の中は、子どもたち・若者たちの希望でもあるんじゃないかと思っています。

石川 アニメ産業は、サブカルチャーから日本を代表する産業へと成長し、通信環境の進歩で時差のない視聴環境も誕生しています。以前は日本国内でヒットしたアニメ作品が海外に輸出・紹介されてきましたが、そういう段階を超えて世界にお届けできる時代になりました。

現在、世界中にはさまざまな対立がありますが、私は「アニメには無限の力がある」と信じています。アニメは、国を超え、時代を超え、憧れのヒーローやヒロイン、愛おしい動物たち、そしてたくさんの仲間がいる世界へと私たちを瞬時に連れて行ってくれます。今大変な思いをしている子どもたちに、私たちの作ったアニメを見ていただき、少しでも明るい未来を想像できるような世の中になるよう、これからもアニメ作りを続けていきます。

阿部 最後に一言、子どもたち・若者たちにメッセージをお願いします。

石川 この緑豊かな多摩にスタジオがあることは、とても良かったと思っています。この多摩の地で「世界名作劇場」をはじめとしたアニメが生み出されていることを、多摩の皆さんにもっともっと知っていただきたいです。今後も私たちは、多摩市での作品づくりを大切にしていきたいと考えています。

阿部 ありがとうございます。子どもたちの中にも生きづらさを感じている子や、学校に行きたくてもいけない子がいます。先ほどの「青のオーケストラ」は、悩みを抱える子どもたちに生きる喜び、生きる道筋を示してくれているアニメです。この多摩のまちから子どもたちの明るい未来とアニメの無限の力を創造していきましょう。